学校番号	１００７

令和３年度　美術科

教科	美術	科目	絵画	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	絵画Ⅱ						
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2年次の絵画で学んだものをしっかりと見て、じっくり時間をかけて取り組みながらさらに表現の幅を広げていきます。現代美術や抽象絵画表現に挑戦したり、日本画の伝統的な制作方法を学び、写生の大切さやものの形や線であらわす美しさに触れます。
最終的には卒業制作で自分が表したい世界感を適した表現方法を自ら選択し、納得のいくものを作ることを目指します。

2　学習の到達目標

内面のイメージをドローイングし、集積から自分の表現したい主題を描いて探る。
日本画の体験を通じ、絵画作品は材料が変わることで全く異なった表現方法になることを知り、自らの表現の幅を広げる。
卒業制作では２年次に学んださまざまな表現方法を生かし、自らの主題を生成し表現を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	・絵画の多様な表現方法に関心を持ち、自己の考えやイメージ、内面の世界を表現し、美術の面白さを味わう ・魅力的と感じたモチーフを描くことに関心を持つ	感性を働かせ、モチーフの良さや美しさ、自己の内面やイメージの世界を見つめ主題を生成する。 ・多様な表現方法を体験を通じで学び、創意工夫をしながら創造的に絵を描く	・油絵の具の特性を理解し、オイルなど用具や材料を使いこなす ・デッサンを中心に、ものの形をしっかりと見て描く力を身につける ・日本画の伝統的な用具・材料の取り扱いに慣れ、自己の新しい表現としての制作をすることが出来る	・作者の意図や心情、表現の工夫を鑑賞や合評会を通じて理解し、良さを味わう ・名画が他の作家に与える影響や、作家の制作動機などを理解する。
評価方法	クロッキー ドローイング 制作途中の作品 作品	クロッキー ドローイング 制作途中の作品 作品	クロッキー デッサン 制作途中の作品 作品	クロッキー ドローイング 制作途中の作品 作品 合評会での発言

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1		木のデッサン 風景画 F8	○	◎	◎	○	a: モチーフの美しさや特徴をしっかり見て描くことに関心を持つ b:絵の具の特性を理解し、色の重なりや感想の速度などを理解したうえで表現を深める c:キャンバスや絵の具の特性を理解する d:油絵の作品の鑑賞を行い美術作品の良さを感じる	デッサン 制作途中の作品 作品
2		風景画 F8 日本画の体験	○ ◎	◎ ○	◎ ○	○ ◎	a: モチーフの美しさや特徴をしっかり見て描くことに関心を持つ b:絵の具の特性を理解し、色の重なりや感想の速度などを理解したうえで表現を深める c:キャンバスや絵の具の特性を理解する d:油絵の作品の鑑賞を行い美術作品の良さを感じる a:様々な作品を鑑賞し、日本画の表現や材料に関心を持つ b:線の表現の面白さを理解し、作品を制作する c:構想を練り下図を描き本画へ進む日本画のプロセスを知る d:美術作品の美しさや良さを感じ取り、日本画と洋画の違いを知る	制作途中の作品 作品

3		卒業制作 F50 ・現代美術の鑑賞 ・抽象絵画の鑑賞	◎ ◎ ◎	◎	○	○ ◎ ◎	a:独創的な表現をしている作品を見てそのおもしろさに気づく 現代美術の表現に関心を持つ抽象的な絵画表現を知る。 b:自分の中にあるイメージを表現するためにドローイングを行い、構想を練る c:キャンバスや絵の具の特性を理解する d:他の生徒と合評会を行い、自分の表現したかった世界を発表したり、他の生徒の作品の面白さを感じ取る	ドローイング 制作途中の作品 作品 発言 感想シート
4		卒業制作 F50	◎	◎	○	◎	a:独創的な表現をしている作品を見てそのおもしろさに気づく ・粘り強く取り組む b:自分の中にあるイメージを表現するためにドローイングを行い、構想を練る c:キャンバスや絵の具の特性を理解する d:他の生徒と合評会を行い、自分の表現したかった世界を発表したり、他の生徒の作品の面白さを感じ取る	制作途中の作品 作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。